# そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

**第92号**　2015年6月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　瀬尾　健悟
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

# 14年度決算を承認

## 役員会 人事や事業報告も

毎日新聞西部社会事業団（岸本卓也理事長）の定時評議員会と臨時理事会が2015年5月28日、北九州市の西部毎日会館であった。評議員会では役員人事のほか14年度決算や事業報告などの議案を可決・承認。臨時理事会では辞任する木村雄峰・常務理事の後任に瀬尾健悟理事を選定した。

定時評議員会には、評議員5人と岸本理事長らが出席。木村常務理事の後任として瀬尾理事を選任。さらに、毎日新聞社の人事異動に伴い西部本社副代表の岩松城・評議員が辞任したため、後任評議員に嶋岡倫志・同本社代表室委員（6月24日付で代表室長予定）を選んだ。

さらに、14年度の各種募金の状況や助成・援助などを盛り込んだ事業報告案や決算案なども原案通り可決した。

続いて開かれた臨時理事会では、理事5人と監事1人が出席。新しい常務理事について審議、事務局案通り選定した。

## 新年度事業予算5800万円に

これらの役員会に先立ち3月13日、通常理事会を開催。15年度の予算案や事業計画を審議した。事業予算は、14年度をやや下回る5800万円規模にとどまったものの各種事業については、ほぼ前年度の内容を継続することを決めた。

**北九州市小倉北区の西部毎日会館であった定時評議員会であいさつをする岸本理事長**

# 29団体に配分

## ■海外難民救援事業■

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面と連動させて1979(昭和54)年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタートした海外難民救援事業は、2014年で35年を迎えた。2014年度は7月、大阪本社の記者とカメラマンがハイチとドミニカのスラムで暮らす難民や貧しい住民を取材、「見えない鎖～ハイチ・ドミニカ報告」と題して、貧困に苦しむ少年や若者の現状を紙面で連載した。

人身売買などにより、最貧国の中でも最低限の生活を強いられる若人たちの窮状を知った読者から多くの浄財が寄せられ、西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会などの国際機関のほか、NGOの「シャンティ国際ボランティア会」「ペシャワール会」など22団体に総額980万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は15億9423万8344円に達した。

**海外救援金の配分先と配分額は以下の通り。**

日本ユニセフ協会▽国連ＵＮＨＣＲ協会▽国連世界食糧計画ＷＦＰ協会▽アムダ（ＡＭＤＡ）▽シェア（国際保健協力市民の会）▽ジェン（ＪＥＮ）▽シャンティ国際ボランティア会▽全国社会福祉協議会 ▽難民を助ける会（ＡＡＲ）▽日本国際ボランティアセンター（ＪＶＣ）▽バーンロムサイ▽ピースウィンズ・ジャパン（ＰＷＪ）▽緑のサヘル▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽ネパール・ヨードを考える会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽シエラレオネフレンズ▽ハイチ友の会▽ＣＯＤＯ海外災害援助市民センター▽ペシャワール会▽ロシナンテス

計　２２団体　　９８０万円

## ■小児がん征圧事業■

平成8(1996)年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる――小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。東京、大阪、西部の3事業団に集まった募金は、小児がんや難病などと闘う子どもたちを支援する組織や医療機関などに贈呈した＝**写真**。14年度は、前年度に西部に寄せられた2000万円の募金の残金に加え、前年度と14年度分の募金を合わせ、13団体に300万円を配分することが出来た。その結果、東京、大阪と合わせた当年度の配分は全国で29団体、1200万円となり、これにより第1次から第19次までの贈呈総額は2億9110万円となった。

**小児がん征圧募金の配分団体と配分額は以下の通り。**

がんの子供を守る会（含むスマートムンストン）▽そらぷちキッズキャンプ▽白血病研究基金を育てる会▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽メイク・ア・ウイッシュ　オブ　ジャパン▽難病のこども支援全国ネットワーク▽パンダハウスを育てる会▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽チャイルド・ケモ・ハウス▽日本クリニクラウン協会▽近畿小児血液・がん研究会▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティア「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽ＮＰＯあいち骨髄バンクを支援する会 ▽ＮＰＯ法人にこスマ九州 ▽久留米大学病院親の会「木曜会」▽ＮＰＯ法人こども医療支援わらびの会▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」 ▽福岡大学病院小児科親の会「みらい」▽福岡ファミリーハウス▽ファミリーハウス由布ＢＡＢＹＭＩＮＥ▽宮崎大学医学部小児がんキャンプ実行委員会▽Ｔｉ－ｄａわらばーむ▽骨髄バンクボランティア福岡▽たんぽぽハウス▽がんの子どもを守る会九州北支部▽大分大学医学部付属病院小児科親の会「ブルースター」

計２９団体　　１２００万円

# 児童福祉事業は8件

親などによる児童虐待や養育放棄、少年犯罪の低年齢化など、子どもたちを取り巻く環境が厳しさを増すなか、未来を担う大事な子どもたちを守り、はぐくむため今期は例年通り8件の事業を助成・援助した。

【田川児童相談所管内児童福祉施設ボウリング大会】福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が10月18日と15年2月21日の2回に分け、福岡県飯塚市の麻生塾ボウルで開いた。児童福祉施設から10月の中学・高校生の大会には48人、2月の小学生の部には57人が参加した。

【第47回山口県アイリンピック大会】山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。県児童福祉連絡会議など7団体が主催、当事業団など11団体が後援・助成し5月24日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催。施設の利用者や職員ら200人が参加し、競技やレクリエーションゲームを繰り広げた。

【平成26年度福岡・筑豊地区合同自立体験セミナー】筑豊京築地区児童福祉施設長会が、管内の児童養護施設に在籍する中・高生を対象に職場実習と職場見学を通じて、卒業後の社会人としての自覚を促すために実施。7月6日に事前説明会、夏休み期間中には職場体験や工場見学、講演会などで研修を重ね、8月24日に事後研修会を開いて感じたことや学んだことなどを報告した。

【第7回きらびかキャンプ】2007年度までの32年間、本事業団がYMCAに助成して心身障害児を対象に実施してきた「のびのびキャンプ」を衣替え、20年度から発達障害児対象の新キャンプとしてスタートした。YMCAが実施するキャンプはそれまで会員対象だったが、会員以外でも参加できるようにすることを条件に、今期も引き続き助成した。

【青少年の自立を支える福岡の会「自立援助ホームかんらん舎」年間運営費助成】児童養護施設退所後の15～20歳の青少年の自立を支援するNPO団体。2008年7月オープンし、福岡市からの補助金や会員の会費、寄付金で運営しているが資金不足のため今期も助成した。財源は「母の日・父の日募金」が主で、不足分は社会福祉基金から補てんした。

【田川児童相談所管内の児童福祉施設「フレ！愛！レクリエーション大会」】福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が9月20日に田川市の県立大体育館で開き、管内の施設の子どもたち1220人や施設職員ら計2220人が参加し、玉入れや綱引きなどで交流した。

【門司区母子クリスマス会】北九州市母子寡婦福祉会門司支部が12月7日、小倉北区のボウリング場に同区内の母子家庭の母子50人を招き、ゲームを楽しんだ。日ごろ忙しい母親とゆっくり触れ合う機会の少ない子どもたちは大喜びだった。

【児童福祉施設への新入学・卒業記念祝い品プレゼント】恒例の本団主催事業で、歳末助け合い募金「愛の義援金」を財源に、児童養護施設や障害児、肢体不自由児、盲ろう児などの児童福祉施設を対象に、小学校入学と中・高校卒業予定者に記念のお祝い品を贈った。昨年度まで対象にしていた長崎県を除く福岡・山口両県内の計71施設を対象に該当者の有無を調査。64施設548人のうち、新1年生には、ランドセルかリュックサック、手提げセット、雨具セット、図書カード（4千円分）のいずれかを▽中・高校卒業予定者には目覚まし時計か図書カード（5千円分）を選んでもらい、祝い品としてプレゼントした。

# アイリンピックに2000人

第48回山口県アイリンピック大会（山口県など主催、毎日新聞西部社会事業団など後援）が5月23日、山口市の維新百年記念公園であった。県内の児童養護施設や障害者支援施設の利用者ら約200人が参加、競技やレクリエーション楽しんだ＝**写真**。

児童福祉月間」の5月に合わせて、各施設利用者らの交流を目的に毎年開催されている。参加者はそれぞれ大玉送りやダンス、ドッジボールなどに挑戦。2人1組で大きなズボンをはいて走りムカデ競争でリレーをする競技では、観客席から大きな声援が送られ、参加者は声を出し合ってゴールを目指していた。

# 19件、大半が継続

## ■障害者福祉事業■

助成・援助の事業件数としては最も多く、大半が継続事業。今期は新規事業が１件あり計19件となったが、うち名義のみの後援は４件だった。

**【支援事業】**

「声の点字毎日」発行▽第37回毎日サマースクール▽北九州精神障害者福祉会連合会合同バスハイク助成▽第35回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽第25回北九州市障害者水泳大会▽第39回「わたぼうし音楽祭」▽第14回ごろりんハウス交流キャンプ▽第６回ＡＣＴ全国研修大会福岡助成（新規）▽第49回九州地区聾学校体育・文化連盟沖縄大会▽第83回全国盲学校弁論大会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費助成▽中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会▽第34回「出発を励ます集い」▽第33回北九州市障害者ボウリング大会▽北九州ＯＰＥＮ（国際車いすテニストーナメント2015北九州）

**【名義後援事業】**

第32回北九州精神障害者家族会連合会総会▽第52回北九州市障害者スポーツ大会▽第33回肢体不自由児者の美術展▽第12回オンキョー点字作文コンクール

## ■災害被災者救援事業■

14年度は2011年に発生した東日本大震災の影響が続く形で推移した。発生から４年が経過し、寄せられる募金額は減少傾向にあるが、大震災の被災者・被災地を支援しようという意気込みは、多くの人々の気持ちの中で継続しているように見受けられる。

14年度、毎日新聞社と３事業団が取り組んだ東日本大震災救援金と毎日希望奨学金には、多くの方々から善意が寄せられ、東日本大震災救援金は200万円を日本赤十字社に送金、希望奨学金は450万円を大阪社会事業団に送金した。ともに残金は次年度に繰り越した。

また、局地的豪雨により国内各地で土砂被害があった８月豪雨災害では、西日本各地で発生した災害を受けて社告で募金を呼びかけた。寄せられた募金は特に甚大な被害が出た広島市に対するものがほとんどで、９月と11月、27年３月の計３回、同市あてに送金した。

西部社会事業団への救援金・奨学金は以下の機関・団体に配分、贈呈した。

【東日本大震災被災者救援金】日本赤十字社へ200万円【毎日希望奨学金】大阪社会事業団へ450万円【８月豪雨災害被災者救援金】広島市へ203万6290円

## ■福祉団体助成事業■

今期は、前年度より１団体減の12団体に助成金を贈った。減少した理由は、募金額の減少に伴う助成事業の見直しにより、「山口県児童福祉連絡会議」への助成を中止したことによる。それ以外の助成はいずれも継続事業だが、大半の団体の助成額を前年度より減額した。

助成した福祉団体は以下の通り。

福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」▽あしなが育英会▽「福岡盲ろう者友の会」▽ＮＰＯ法人抱樸（旧・北九州ホームレス支援機構）▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会▽ロタイ両国の社会福祉交流事業助成

◆編集後記◆

木村雄峰・常務理事が5月末で退任、その後任として６月から事業団事務局で仕事をすることになりました。どうぞ、よろしくお願いします。（瀬尾）